

令和3年成人式祝辞

静岡雙葉学園 理事長

榊 佳之

皆様、20歳の「成人」になられましたことおめでとうございます。ご両親、ご家族の皆様にもお嬢様がこの日を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。本年はコロナ感染拡大で恒例の「成人式」は開催できませんでしたが、オンラインでお祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

皆様は高校を卒業して2年、中高時代にはなかった様々な新しい経験や出会いがあり、それらを通して一段と大きく成長されたことと思います。

しかし、今、コロナ感染の急拡大で社会は、世界は大きく変わろうとしています。物質的豊かさや便利さを求めて走り続けてきた今日社会が一度立ち止まり、本当に何が大切かを自問する機会となりました。2年前には想像もできなかったことです。皆さんも大きな戸惑い、不安を覚えておられると思います。

しかし、皆さんはこのような「大きな変化」に立ちすくむ必要はありません。歴史を見ても、「大きな変化」の時代とは、その中から新しいものが生まれる可能性を秘めた時代でもあります。コロナ後はデジタル社会が大きく拡大すると予想されます。また、人口減少が続く日本社会は、人口の半分以上を占める女性の社会的活躍なしには成り立っていかないでしょう。テレワークなどデジタル技術の拡がりと共に、働き方の自由度が増し、会社や組織に縛られることなく、女性が能力を発揮できるチャンスが大きく広がるでしょう。皆さんには、コロナ時代の不安に立ちすくむことなく、自分の可能性をかけて、次の社会のために生きる、或いは未来を拓くという気構えや夢を持って生きてほしいと思います。

尤も「コロナ」は私達にデジタルだけではなく、社会における人間同士のつながり、共感の大切さも教えてくれました。これからは、以前の競争社会に戻るのではなく、デジタル技術という「道具」を大切にしつつも、人々の連帯や共感を大切にする社会をつくることが求められます。雙葉学園の6年間で心に刻んだ校訓「徳においては純真に、義務においては堅実に」には、各々が神から授かった使命に気づき、それを活かして社会のため、人々のために尽くしなさいというメッセージが込められています。皆さんにはこの校訓を胸に、これからの歩みの中でさらに大きく成長し、ポストコロナ時代の新しい社会を拓く一員になるという気概を持って、前向きに歩んでほしいと思います。

皆さんのこれらの人生が実り豊かで、充実したものであることを祈ってお祝いの言葉とします。